

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分  
 【発行日】平成28年10月20日 (2016.10.20)

【公開番号】特開2016-10517(P2016-10517A)  
 【公開日】平成28年1月21日 (2016.1.21)  
 【年通号数】公開・登録公報2016-005  
 【出願番号】特願2014-133411(P2014-133411)  
 【国際特許分類】

A 6 1 F 13/496 (2006.01)

A 6 1 F 13/49 (2006.01)

A 6 1 F 13/514 (2006.01)

【F I】

A 4 1 B 13/02 U

A 4 1 B 13/02 F

【手続補正書】

【提出日】平成28年8月30日 (2016.8.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1】

互いに直交する縦方向及び横方向と、肌対向面及び非肌対向面とを有し、前後ウエスト域の一方である第 1 ウエスト域と、それらの他方である第 2 ウエスト域と、前記第 1 ウエスト域と前記第 2 ウエスト域との間に位置するクロッチ域と、前記第 1 及び第 2 ウエスト域と前記クロッチ域とのうち、少なくとも前記クロッチ域に位置する吸液性コアとを含む着用物品において、

前記第 1 ウエスト域は、前記非肌対向面側に位置する外層シートと、前記外層シートよりも内側に位置する内層シートと、前記内外層シート間に配置され、前記外層シートの前記非肌対向面側から視認可能な装飾要素を有する中間シートとを含み、

前記外層シートは、捲縮した複合繊維からなる不織布であって、

前記内層シートの白色度は、前記外層シートの白色度よりも高いことを特徴とする着用物品。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 4】

前記外層シートは弾性的に非伸縮性であって、前記内層シートは、前記外層シートに伸長状態で取り付けられた弾性的に伸縮可能な伸縮性シートである請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の着用物品。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 6】

前記外層シートは、前記複合繊維が熱圧着により互いに溶着された状態にある溶着部を有する請求項 1 ～ 5 のいずれかに記載の着用物品。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 7】

前記外層シートは、酸化チタンの含有量が 0.1 質量% 以下である請求項 1 ～ 6 のいずれかに記載の着用物品。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0019

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0019】

内層シート 21, 22 は、外層シート 23, 24 よりも高い白色度を有する。具体的には、内層シート 21, 22 は、酸化チタンの含有量が 0.1 質量% 以上であって、白色度が 45 ～ 55 であり、外層シート 23, 24 は、酸化チタンの含有量が 0.1 質量% 以下、好ましくは 0.0 質量% であって、白色度が 40 ～ 50 である。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0023

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0023】

< 吸収シャーシ >

図 2 及び 3 を参照すると、吸収シャーシ 12 は、前後ウエストパネル 16, 17 に取り付けられた前後端部 12A, 12B と、前後端部 12A, 12B の間に位置する中間部 12C とを有しており、少なくともクロッチ域 15 において縦方向 Y へ延びる吸液性コア 43 と、吸液性コア 43 の肌対向面側に位置する親水性の繊維不織布から形成されたトップシート 44 と、吸液性コア 43 の非肌対向面側に位置する疎水性又は難透液性の繊維不織布から形成されたバックシート 45 と、吸液性コア 43 とバックシート 45 との間に配置された、少なくとも吸液性コア 43 のバックシート 45 と対向する面全体を被覆する大きさを有する不透液性の防漏シート 46 とを含む。トップシート 44 とバックシート 45 には、SMS 繊維不織布やスパンボンド不織布等の各種公知の繊維不織布を用いることができる。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0026

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0026】

記述のとおり、おむつ 10 の前後ウエスト域 13, 14 において、中間シート 51, 52 は、内外層シート 21 - 24 の間であって、外層シート 23, 24 の非肌対向面側に接合されており、内層シート 21, 22 の白色度は、外層シート 23, 24 のそれよりも高いため、白色度が低い外層シート 23, 24 を通して装飾要素 53 を視認することができる。かかる効果を得るために、外層シート 23, 24 における酸化チタンの含有量を約 0.1 質量% 以下にし、内層シート 21, 22 における酸化チタンの含有量を約 0.1 質量% 以上にすることが好ましい。ま

た、中間シート 5 1 , 5 2 の非配置領域となる前後ウエスト域 1 3 , 1 4 の両側部 1 3 B , 1 4 B では、外層シート 2 3 , 2 4 と白色度が比較的に高い内層シート 2 1 , 2 2 とが積層されることによって、着用者の肌が透視されることを抑えることができる。両側部 1 3 B , 1 4 B における白色度は、5 5 以上であることが好ましく、白色度をこのような値にすることで肌の透視を確実に抑えることができる。さらに、両側部 1 3 B , 1 4 B において白色度が 5 5 ~ 7 0 の範囲内であることが好ましい。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 2】

また、外層シート 2 3 , 2 4 における酸化チタンの含有量を約 0 . 1 質量 % 以下とすることによって、中間シート 5 1 , 5 2 と外層シート 2 3 , 2 4 とを一層密着させることができ、その結果、装飾要素 5 3 の視認性を向上させることができる。つまり、酸化チタンの含有量が比較的に多い場合には、外層シート 2 3 , 2 4 を形成する不織布の表面に凹凸が形成され、中間シート 5 1 , 5 2 との密着性が低下するおそれがある。一方、本実施形態のおむつ 1 0 では、酸化チタンの含有量を約 0 . 1 質量 % 以下とすることによって、不織布の表面を平滑にし、中間シート 5 1 , 5 2 との密着性を向上させることができる。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 7】

上記段落 0 0 3 6 に開示した本発明は、少なくとも下記の実施の態様を含むことができる。

( 1 ) 第 1 ウエスト域 1 3 は、吸液性コア 4 3 が配置される中央部 1 3 A と、横方向 X において中央部 1 3 A の外側に位置する両側部 1 3 B とを有し、両側部 1 3 B の白色度は、5 5 以上である。

( 2 ) 外層シート 2 3 は、単位面積当たりの質量が  $20 \sim 30 \text{ g/m}^2$ 、織度が  $1.0 \sim 8.0 \text{ d tex}$ 、厚さ寸法が  $0.15 \sim 1.5 \text{ mm}$ 、白色度が  $40 \sim 50$  である。

( 3 ) 外層シート 2 3 は弾性的に非伸縮性であって、内層シート 2 1 は、外層シート 2 3 に伸長状態で取り付けられた弾性的に伸縮可能な伸縮性シートである。

( 4 ) 外層シート 2 3 と中間シート 5 1 とは、中間シート 5 1 の全域に亘って塗布された接着手段 6 1 を介して接合され、接着手段 6 1 が塗布された領域は、中間シート 5 1 の全面積の 4 % 以上である。

( 5 ) 外層シート 2 3 は、前記複合繊維が熱圧着により互いに溶着された状態にある溶着部 7 5 を有する。

( 6 ) 前記外層シートは、酸化チタンの含有量が 0 . 1 質量 % 以下である。